

Ⅱ-4

机間指導

先生と話すと、自信が出てきたよ！

机間指導は何のためにするの？

○ 子ども一人一人の思考を助ける

子どもたちの思考過程は一人一人異なります。解決の見通しが持ちにくかったり、既習の知識などをうまく活用しにくかったりする子どもに対して、個に応じた適切な支援をすることで、自己解決を促したり、学習への意欲を育んだりすることができます。



〇〇さんは～と考えたのね。さらに、△△と比べて考えてみるとどうなるかな？



いい考えだね。ぜひ、後でみんなに広げてね。

○ 子どもの多様な考えを把握し、後の展開に生かす

子どもの考えを把握し、取り上げたい考えや取り上げる順番などについてプランを立てることで、効果的・意図的な指名ができます。

○ 教師と子どもの人間関係を深める

個別に励ましたり、温かい言葉をかけたりして、丁寧に指導することで、信頼関係を築くことができます。

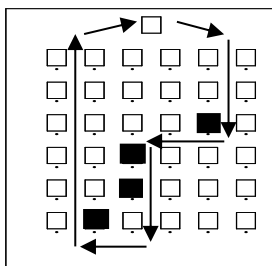
さっきのあなたの発言、とてもよかったわ。



ねらいをもって机間指導する。

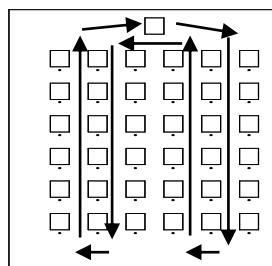
★ 次の例から、日々の机間指導を見直してみましょう。

【ねらい： 普段、発表の少ない子どもが自信を持ち、発表できるようにする。】



- ・ 全体を見渡して全員がノートに考えを書いているか確認し、鉛筆が止まっている子ども等、関わる順番やコースを決める。
- ・ 赤ペンでよいところに○を付けて認め、自信がもてるようにする。
- ・ 改善したらよい点について助言し、励ます。
- ・ よい考えであるため、みんなに紹介してほしいことを伝える。

【ねらい： 子どもの多様な考えを把握し、後の交流活動に生かす。】



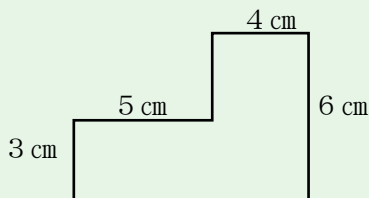
- ・ どのような考えをしているか座席表などに記入しながら見て回り、発表順やグループづくりに役立てる。
- ・ 多くの子どもに共通のつまずきがある場合は、全員に指導する。
- ・ 一人一人のよさは大きく称賛し、つまずきは適切に指導する。

一人一人の学習過程を評価し、個別に指導することで自己有用感を高める。

★ 机間指導で把握した子どもの状況を、授業展開に生かすことができます。

【例】 下の図形の面積の求め方について、一人一人が自己解決する授業場面（第4学年算数「面積」）で考えてみましょう。

教師は机間指導で、Aさん、Bさん、Cさんの考え方を把握しました。全体で話し合う場で、3人の子どもたちが自信を持って発表できるように、ノートに○を付けたり、考え方のポイントを明確にできるように指導したりしました。

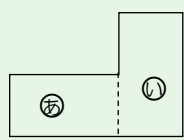


Bさんの考えに対して

$$3 \times 5 = 15 \quad \textcircled{a} \quad \textcircled{b}$$

$$6 \times 4 = 24 \quad \textcircled{c} \quad \textcircled{d}$$

$$15 + 24 = 39 \quad \underline{39 \text{ cm}^2}$$



ノートを見るとBさんの考え方がよく分かるわ。友達に説明する時にも役立つね。

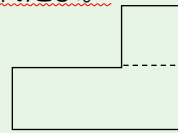
Aさんの考えに対して

よこに線を入れたよ。①

$$3 \times 9 = 27$$

$$3 \times 4 = 12$$

$$27 + 12 = 39 \quad \underline{39 \text{ cm}^2}$$



横の線って、どこに線を入れたの？

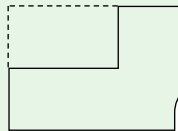


Cさんの考えに対して

$$6 \times 9 = 54$$

$$3 \times 5 = 15$$

② $54 - 15 = 39 \quad \underline{39 \text{ cm}^2}$



ひき算って、いい考えだね。どこからどこをひいたのか、ぜひ、隣の友達に説明してごらん。

机間指導の留意点

- ・ 全体への支援が必要か、個別な支援が必要かを判断しましょう。同じつまずきが見られた時などは、なぜ、子どもがそのつまずきをしているのかを考えた上で、再度、全体へ確認や指導をしましょう。
- ・ 前から見渡す中で、関わる子どもを決めましょう。関わる時には、腰をかがめて子どもの目線で接しましょう。
- ・ 赤ペンを持ってノートに○やコメントなどを書き込みましょう。
- ・ よい点を認めたり励ましたりして、子どもが安心感や自信を持てるようにしましょう。
- ・ 助言を求めやすい温かい雰囲気をつくりましょう。
- ・ 座席表などを活用しながら、一人一人のつまずきや変容を計画的、継続的に観察・記録し、個に応じた指導に役立てましょう。



ワンポイント！

1時間に1回は、気になる子どもの所へ

1時間に1回は、気になる子ども、特に課題を抱える子どもの所へ行きましょう。子どもの特性に合わせた先生の適切で温かい関わりは、子どもたちの自信を育むとともに、その子どもに、その授業での居場所と安心感を与えます。